

2020年 審査員一覧

審査員(最終審査会)

- 各務 茂夫
国立大学法人東京大学 大学院工学系研究科 教授
産学協創推進本部 副本部長
一橋大学商学部卒、スイス IMEDE (現 IMD) 経営学修士 (MBA)、米国ケースウェスタンリザーブ大学経営学博士。ポストンコンサルティンググループを経て、1986年コーポレートディレクション (CDI) の設立に創業パートナーとして参画、取締役主幹、米国 CDI 上級副社長兼事務所長を歴任。経営コンサルタント歴 15 年。学位取得後、世界最大のエグゼクティブサーチ会社の一つ、ハイドリック&ストラグル社パートナー (ボード・プラクティス) に就任。我が国企業のコーポレートガバナンス改革に取り組む。2002 年東京大学大学院薬学系研究科「ファーマコビジネスイノベーション講座」教員となり、2004 年東京大学産学連携本部 教授・事業化推進部長に就任。2004 年～2013 年まで (株) 東京大学エッジキャピタル監査役。2013 年 4 月から東京大学産学連携本部 教授・イノベーション推進部長 (～2020 年 3 月) 大学発ベンチャー、学生発ベンチャー支援 (インキュベーション、メンタリング、起業相談等)、学生起業家教育、研究者イノベーション人材育成教育、企業との大型共同研究創出に取り組む。日本ベンチャー学会理事・会長 (2020 年 1 月～)、日本ベンチャー学会第 1 回松田修一賞受賞 (2015 年)。NPO 法人アイセックジャパン代表理事・会長 2020 年 4 月 東京大学大学院工学系研究科教授、産学協創推進本部副本部長に就任。



-
- 安部 博文
国立大学法人電気通信大学 産学官連携センター ベンチャー支援部門 特任教授

博士(経済学)。電気通信大学認定ベンチャー企業支援、ベンチャービジネス論を担当。事業計画を拝見する場合、「誰が・誰に・何を・いくらで・いつ・どこで・どのような方法で提供する話か」、「類似・先行の商品・サービスとの違いと優位性は何か」、「お客様・ユーザにとっての費用対効果は何か」の説明に注意します。これらの項目の説明が出来ているかどうか、をチェックポイントにしています。



- 阿部 浩之

国立研究開発法人国立成育医療研究センター知財・産学連携室 室長

大手外資系製薬メーカーほか、医薬品業界において、川上(研究開発)から川下(流通・調剤・販売)まで、あらゆる職種に従事。2015年、国立成育医療研究センター 知財・産学連携室長に就任し、小児製剤開発、産学連携、センター内のシーズ発掘およびマッチング企業の探索を推進。2017年、日本医療研究開発機構臨床研究・治験基盤事業部に出向し、橋渡し研究支援拠点や臨床研究中核病院等においてアカデミア等による革新的な基礎研究の成果を一貫して実用化に繋ぐプログラム等を推進。1986年、富山医科薬科大学(現 富山大学)薬学部薬科学科卒、2013年、武蔵野大学大学院薬科学研究科博士後期課程修了(博士(薬科学))、薬剤師、ITストラテジスト(経済産業省認定 情報処理技術者レベル4)。



- 後藤 吉正
国立研究開発法人科学技術振興機構 理事
博士(工学、技術経営)
1985年 カーネギーメロン大学コンピューターサイエンス学科 客員研究員(1988年3月まで)
2008年 松下電器産業株式会社 上席理事
2011年 基準認証イノベーション技術研究組合 理事長
2012年 国立大学法人名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部 教授
2015年より現職



-
- 田村 真理子
日本ベンチャー学会・事務局長
(株)日本経済新聞社、(株)日経BP社を経て、2000年より日本ベンチャー学会事務局長。早稲田大学アントレプレヌール研究会理事、早稲田大学女子大生起業家交流会代表。経済産業省、文部科学省等政府委員等。主にベンチャー企業や起業家に関する調査・取材を手掛けながら、起業家教育や事業創造論、事業計画、キャリアクリエイト等を早稲田大学、上智大学、事業創造大学院大学等で担当している。
日本ベンチャー学会では1,200人の会員を中心に、中小・ベンチャー企業が創出しやすいエコシステムの環境創りに向けた産学官連携の支援活動などを行っている。



- 尾崎 典明

エスファクトリー・代表

2004年九州工業大学大学院・工学研究科物質工学専攻修了

同年コンサルティング会社へ入社、中小から大企業に対する新規事業・新商品開発支援および知財戦略立案等の業務に携わる。

2009年エスファクトリーを創業、企業に加え、地方自治体、NPO、スタートアップに対しアドバイス等行う傍ら、経済産業省や中小企業基盤整備機構等のコーディネータ、アドバイザー等を歴任。

また一般社団法人TXアントレプレナーパートナーズではスタートアップに対し実践的なメンタリング等を行う。およそ17年間に渡り、ものづくりやサービス、業種業態問わずまたその事業ステージによらず、それぞれの企業が有する課題に応じた支援を実践してきたことから、日本全国に企業や官公庁、地方自治体、大学等、幅広いネットワークをもつ。

現在、筑波大学国際産学連携本部産学連携教授、一般社団法人TXアントレプレナーパートナーズ副代表理事も務める。日本を元気にするため、日々泣いたり笑ったりしながらも、全国の現場で志ある起業家の皆さんのお手伝いをしています。愛嬌とフットワークの軽さが持ち味です。



審査員(書類審査・ピッチ審査)

- 井本 潤一
ニッセイ・キャピタル株式会社 シニアベンチャーキャピタリスト
京都大学大学院工学研究科修士課程修了。
富士フィルム(株)にて医薬品等の研究開発に従事したのち、Thomson Reuters
にて特許・文献情報関連業務に従事。
現在は、ニッセイ・キャピタル(株)にて主に研究開発型ベンチャー企業への投資を
担当。



- 伊藤 毅
Beyond Next Ventures 株式会社 代表取締役社長
2003年東京工業大学大学院 理工学研究科化学工学専攻修了後、ジャフコ入
社。ジャフコにて主にリードインベスターかつ社外取締役として支援した先には、
CYBERDYNE(2014年3月東証マザーズ上場)、Spiber、クオンタムバイオシス
テムズ、マイクロ波化学等があり、大学発の技術シーズ段階からの事業化支援お
よび投資活動に関して多数の実績と経験を有する。2014年7月にジャフコを退社
し、2014年8月に技術系スタートアップへのインキュベーション投資に特化した独
立系アクセラレーターである Beyond Next Ventures 株式会社を創業し、代表取
締役に就任。2015年2月に設立した1号ファンド(ファンド総額55億円)、2018
年10月に設立した2号ファンド(ファンド総額100億円超)を運用している。現
在、リバーフィールド株式会社、株式会社 CureApp などの社外取締役を兼務。
技術系ベンチャーが今後の日本の新産業を創っていくと信じ、創業者と共に、世界
に貢献できる技術系ベンチャーを数多く支援していきたいと活動中。



- 内田 毅彦

株式会社日本医療機器開発機構 代表取締役

内科・循環器科専門医。ハーバード公衆衛生大学院修士・ハーバード経営大学院 GMP 修了。日本人として初めての米国食品医薬局 (FDA) 医療機器審査官を務める。外資系医療機器メーカー勤務経験も有し、医療機器開発のスペシャリスト。医療機器開発のプロセスに幅広く精通し、多領域でグローバル製品の事業化を行っている。医療機器以外では再生医療、プログラム医療機器、ヘルスケアサービス等のインキュベーションも実施している。



- 各務 茂夫

国立大学法人東京大学 大学院工学系研究科 教授

産学協創推進本部 副本部長

一橋大学商学部卒、スイス IMEDE (現 IMD) 経営学修士 (MBA)、米国ケースウェスタンリザーブ大学経営学博士。ボストンコンサルティンググループを経て、1986 年コーポレートディレクション (CDI) の設立に創業パートナーとして参画、取締役主幹、米国 CDI 上級副社長兼事務所長を歴任。経営コンサルタント歴 15 年。学位取得後、世界最大のエグゼクティブサーチ会社の一つ、ハイドリック&ストラグル社パートナー (ボード・プラクティス) に就任。我が国企業のコーポレートガバナンス改革に取り組む。2002 年東京大学大学院薬学系研究科「ファーマコビジネスイノ

ベーション講座」教員となり、2004年東京大学産学連携本部 教授・事業化推進部長に就任。2004年～2013年まで(株)東京大学エッジキャピタル監査役。2013年4月から東京大学産学連携本部 教授・イノベーション推進部長(～2020年3月)大学発ベンチャー、学生発ベンチャー支援(インキュベーション、メンタリング、起業相談等)、学生起業家教育、研究者イノベーション人材育成教育、企業との大型共同研究創出に取り組む。日本ベンチャー学会理事・会長(2020年1月～)、日本ベンチャー学会第1回松田修一賞受賞(2015年)。NPO法人アイセックジャパン代表理事・会長 2020年4月 東京大学大学院工学系研究科教授、産学協創推進本部副本部長に就任。



- 曾我 弘

株式会社カピオン 代表取締役

新日鉄退社後、1991年～2010年までシリコンバレーに移住。画像圧縮技術開発のベンチャー企業 Eidesign Technologies, Inc. を設立、経営。

1996年に Spruce Technologies, Inc. を設立。DVD オーサリングシステムを開発・商品化し、今日の DVD 普及の一翼を担う。旗艦商品「DVDMaestro」は最初の顧客が Disney でハリウッドでのデファクト標準になった。最終的に、同社を Apple へ売却。

その後 SVJEN(NPO)を設立し、バイオ関連ビジネスや、日米のスタートアップのメンターとして支援活動を行う。2010年末に帰国後、能登左知と(株)カピオンを共同で設立し NEDO と協力してスタートアップ企業支援を行う。2012年 Blue Jay Energy をシリコンバレーに設立、日本の技術をもとにグローバル事業展開を推進。Kapion は大学発ベンチャー支援(東大)やメンター活動と並行して、慶應大学リーディング大学院で起業講座を担当(2012～2016)。現在名古屋大学卓越大学院の起業メンター。また一般社団法人カピオンエデュケーションズ(NPO)主催の高校生を対象とした国際起業家育成イベント「GTE(r)2016 イノベーションチャレンジ」を和歌山市で開催。コロナ禍のため2020年から高校生を対象とした DECA Japan の Online 起業大会を開催中。



- 前田 信敏

NV Ventures 株式会社 代表取締役社長

日本インベストメント・ファイナンス株式会社(現大和企業投資株式会社)や、ウェルインベストメント株式会社勤務を経て、2019年 NV Ventures 株式会社を設立し、代表取締役社長に就任。20年以上に渡り、大学発を中心とする技術系スタートアップの支援を行なっている。文部科学省(現 JST)START プロジェクト事業プロモーター、内閣府技術委員・アドバイザー等を歴任。現在、NEDO 事業カタライザー、川崎市 Kawasaki Deep Tech Accelerator メンター、K-NIC サポーター、KSP イノベーションビジネススクールメンター、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 イノベーション委員会 委員等を務める。



- 松田 一敬

合同会社SARR 代表執行社員

慶応大学経済学部卒業後、山一証券(株)証券引受部を経て、同社ロンドン現地法人にて中東、アフリカ、東欧諸国等を担当する。その後、国内初の地域密着型ベンチャーキャピタルを設立。2000年6月に札幌 Biz Cafe を設立、サッポロバレーのITベンチャーを支援。地元IT企業の株式公開に繋げる。2000年9月、国立大学発ベンチャー第1号(北海道大学発)の設立に関与する等、大学発ベンチャー支援の国内の草分け。製薬企業向けマイルストーン契約の締結等、知財の事

業化の実績を積む。2011年4月に合同会社SARRを設立。起業家教育、ハイテクスタートアップの支援等を行っている。



- 東 博暢

株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 主席研究員

大阪府立大学大学院工学研究科(現:電子・数物系専攻)修士課程修了。ベンチャー支援や社会企業家育成支援、ソーシャルメディアの立ち上げを経て、2006年日本総合研究所入社。情報通信分野(ICT)を中心に、PMI、新規事業策定支援、社会実証実験を通じた法制度改正・ガイドライン策定支援等のコンサルティング/インキュベーション活動実施している。ICT融合領域として、FinTech、メディカル・ヘルスケア、都市開発(スマートシティ)、サイバーセキュリティ、教育等、幅広く対象としている。近年は、政府や海外技術系シンクタンクやアクセラレーターと連携し、ロボット・AI、バイオ・ライフサイエンス等の科学技術の商業化を推進するオープンイノベーションプログラムを実施し、技術系ベンチャー支援・起業家支援にも取り組む。その他、総務省等の政府機関、自治体の委員、民間団体の理事、外部アドバイザー等も歴任している。



(順不同)

2020年 メンター一覽

メンター

- 安達 俊久

グローバル IoT テクノロジーベンチャーズ株式会社 代表取締役社長

東京工業大学電気工学科卒業後、伊藤忠商事に入社。

1982年から1988年まで英国ロンドンに駐在し、日本製電子機器の欧州市場開拓と拡販に寄与。1990年からは、欧米のITベンチャー企業の日本市場における商権獲得と投資事業に従事。1995年から2002年まで、伊藤忠テクノソリューションズでビジネス開発部長、事業企画室長を務め、国内外の先端ITベンチャー起業家及びシリコンバレー Sand Hill Road VCやイスラエルのエコシステムなど幅広い人脈を構築。2002年から2015年まで、伊藤忠テクノロジーベンチャーズ代表取締役社長として、3本総額211億円のVCファンド運営責任者を務める。2011年から2014年まで、一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会の会長を務め、規制緩和とベンチャー成長戦略の提言、実行の貢献。

スタートアップと大企業の共創アライアンス作りとオープンイノベーション創出の経験豊富。



- 石倉 大樹

株式会社日本医療機器開発機構 取締役CBO

医療分野での起業・新規事業開発に特化。自ら創業メンバーとして参画した創薬ベンチャー・アキュメンバイオフーマは、日本で初めて大学発の技術を事業化した会社として上市(欧州)に成功。その後は医療ITベンチャー・エムスリーにて、

製薬企業及び医療機器メーカーの治験を加速化させる IT サービスの新規事業開発をリード。スタンフォード大学経営学修士課程(MBA)留学中には、Medicine X の Innovation Sourcing Team として、mHealth 及び Health Tech の startup を投資検討し、Biodesign プログラムも経験。現 P5,Inc.取締役。
平成27年度東京大学大学院薬学系研究科非常勤講師。



● 潮 尚之

ITPC (International Technology Partnership Center) プリンシパル

シリコンバレー及び東京を拠点として、米国の有望なベンチャー企業の発掘と日本進出のサポート、オープンイノベーションを推進する日本企業の海外動向調査やベンチャー企業との協業サポートなど、インターナショナル・ビジネスデベロップメントの専門家として活動中。専門分野はオートモーティブ、セキュリティ、画像処理、センサ、デバイス、IoT、AgTech、InsurTech 及びモノづくりなど。また、NEDO-TCP、未来、Mt. Fuji イノベーションエンジン、けいはんなリサーチコンプレックス及び大阪イノベーションハブのなどの産官学連携プロジェクトのメンター、大阪大学共創機構・特任教授、大阪府立大学研究推進機構・特認教授、東京大学 TLO アドバイザ、関西大学 SmartFinder プロジェクト・アドバイザ、JETROサンフランシスコの中小企業海外展開現地支援プラットフォーム・コーディネーター及び川崎市産業振興財団の新事業コーディネーターなどを担当し、産官学連携推進、大学発技術シーズの事業化及び日本の中小企業の米国進出なども支援。

2006年に独立するまでは、松下電器産業(現パナソニック)において、ITS(高度道路交通システム)をはじめとした様々なビジネス・技術分野でのグローバルな事業開発やアライアンスを推進。米国(シリコンバレー及びプリンストン)駐在時には、ベンチャー企業や大学との技術連携推進の責任者を担当。

慶応義塾大学文学部人間科学専攻卒。



- 大木 美代子
Serend プリンシパル

日本 IBM でグローバルマーケティングに従事後、私費留学で渡米。
ビジネス修士号取得後、シリコンバレーの大小様々な IT 企業で、グローバルビジネス開発に携わる。2013年1月に独立、同地をベース拠点としてコンサルティング会社 Serend (<http://www.serendinc.com>) をスタート。
アメリカ 及び アジアのスタートアップ、中小企業、大企業、政府機関などに対する新規事業創出支援を、戦略策定から実施までハンズオンの伴走型で行っている。
また、日本の若者の人材育成にも積極的に関与しており、沖縄の Ryukyufrogs プログラムのスペシャルサポーターを長年兼任、日本の大学・大学院でのアントレプレナーシップ等に関する講演やシリコンバレーでの体験学習などの機会も多数提供している。サンフランシスコ近郊在住。



- 大矢 将人
凸版印刷株式会社 事業開発本部 戦略投資センター 課長

2000 年東京大学大学院工学系研究科修了。凸版印刷入社。
産業資材、医療医薬包材、ディスプレイ用光学部材の研究開発に従事。
2010 年より、経営企画本部で主に投資評価プロセスの構築・投資管理業務を

担当。現在は、事業開発本部にてベンチャー出資や新事業開発支援に取り組んでいる。2017年に国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が実施した研究開発型ベンチャーの支援人材を育成する高度専門支援人材育成プログラム「Technology Startup Supporters Academy(SSA)」を修了。



- 岡田 朋之

WiTricity Corporation エグゼクティブディレクター

JABI (Japan America Business Initiatives) 理事、ナビゲーター

Silicon Valley Alliances (SVA) 共同創始者、ビジネスデベロップメント担当

日米の大企業やスタートアップ企業をつなぐ、シリコンバレー在住、技術営業コンサルタント。米国モトローラにて携帯電話開発エンジニア、設計開発チームのマネージャーを経て、日本モトローラに赴任。新規R&Dプロジェクトマネージャー、次世代携帯電話技術部長、モトローラジャパンPCS事業部長、モトローラアジアパシフィックバイスプレジデント、モトローラジャパン常務取締役を経て、米国に帰国。シリコンバレーにて携帯電話OSのスタートアップ、組み込みソフトウェア企業の米国社長兼役員やシリコンバレーベンチャー企業の社外取締役を経験。現在、ワイヤレス、ソフトウェア、IoT、半導体、自動車業界向けの技術営業やビジネスコンサルタントとして活動中。ボストンのMIT発スタートアップのワイトリシティの米国および日本向け営業担当として、自動EV向けワイヤレス充電の普及活動をしている。また、シリコンバレーを拠点に、日本のスタートアップ及び中小企業の米国進出支援、大企業のグローバルマネジメント支援を行っている。経済産業省委託事業の始動 Next Innovatorメンター、NEDO NEPカタライザー。アリゾナ州立大学電子工学科卒。



- 小柴 亮典

株式会社東芝 CPSxデザイン部 新規事業推進室 エキスパート
弁理士

1996年東京大学大学院工学系研究科を修了し、株式会社東芝に入社。
研究員として米国ベンチャーに駐在し、ベンチャー企業のスピード感とM&Aの
活発さを体感。現在、新規事業推進室に所属し、技術シーズを起点とする新規
事業の創出業務に従事。社外の複数のアクセラレーションプログラムのメンターも
務める。2017年度国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
(NEDO)が実施した研究開発型ベンチャーの支援人材を育成する高度専門支援
人材育成プログラム「Technology Startup Supporters Academy(SSA)」
を修了。2004年弁理士登録し、社内弁理士として出願、係争・訴訟経験も多数。



- 三枝 裕和

SaiLogic株式会社 代表取締役
株式会社サエグサコオート工業 代表取締役

東京大学大学院経済学研究科(企業・市場専攻)修士課程修了。
株式会社日本総合研究所や PwCアドバイザリー合同会社で経営戦略立案、
新規事業開発、事業再生など幅広くコンサルティングを経験した後、リクルート

グループに入社。Webマーケティングの新規事業戦略担当マネジャーとして事業を推進。現在は SailLogic株式会社を立ち上げ、コンサルティングやベンチャー企業への出資・育成を手掛けながら、家業であるサエグサコオート工業を二代目として引き継ぎ、経営革新に日々取り組んでいる。



● 坂本 大

パートナー

ベナモー・グローバル・ベンチャーズ

30年以上の駐米経験を通して、環太平洋地域における事業戦略構築、ベンチャー投資、ビジネスインキュベーション、クロスボーダーM&A・事業提携などに取り組む。NEC のグループヴァイスプレジデントとして、ITサービス分野のコーポレートベンチャーファンド設立などの業務に従事。

Niteo パートナース社役員、オープングループ社役員、エンタープライズネットワーク、ビディエントシステム社の役員、そしてビジネス以外の面でハーバードビジネススクール北加州協会やサステナブルシリコンバレー(NPO)のボードメンバー職などを通じて社会貢献活動を行っている。現在3Comやパームコンピューティング社を創業したシリコンバレーのベテラン起業家であるエリック・ベナモーが率いるベナモー・グローバル・ベンチャーズのパートナー、ベイエンジェルズのボードアドバイザーはじめ日本企業や米国スタートアップの顧問を務めながらシリコンバレーにてベンチャー投資やスタートアップの事業支援に従事。

慶應義塾大学経済学部卒、ハーバード大学MBA。



- 瀬川 秀樹

クリエイブル 代表

(株) リコーに長年勤め、光ディスクのフォトソングラフイー技術者、光ディスクの国際標準化委員会(ISO)の日本代表団メンバー、技術企画、シリコンバレーにおけるCVC (Corporate Venture Capital) と新規事業の立ち上げ／撤退、新規事業開発センター副所長、未来技術総合研究センター所長などを歴任。

また、BOP (Base of the Pyramid (世界の貧困層)) の project を立ち上げ、インドの農村部での活動も行ってきた。常に新しいコトや多くの新規事業の立ち上げに挑戦し続けた。2014年に(株)リコーを早期退職し、「新規事業のメンタリング」「若手育成」などを行う Creable (クリエイブル) を開設。多くのメンタリング・講演・研修・ワークショップ等を行っている。

イノベーションをキーワードにした4コマ漫画やコラムなどの執筆も行なっている。



- 竹居 邦彦

A Tech Ventures株式会社 代表取締役

千葉大学工学部ベンチャービジネスマネジメント非常勤講師

1986年中央大学経済学部卒業、青山学院大学国際ビジネス専攻・ファイナンス課程終了、横浜銀行に入行、支店勤務を経て証券業務に携わる。

2001年より独立系ベンチャーキャピタルでインベストメントマネージャーとしてハンズオン型投資業務に従事。投資分野は素材、バイオ、半導体関連などグローバル展開を目指すテクノロジー系ベンチャー企業など。

ダブル・スコープ株式会社(WS)は 2005年リチウムイオンバッテリー用セパレーターの開発・製造を目的に共同代表として設立に参画。WSは 2011年12月東証マザーズ上場、2015年東証1部上場を経て、2017年退任。

テクノロジー系ベンチャーの成長に貢献できれば幸いです。



- 田所 雅之

ベーシック チーフストラテジーオフィサー ユニコーンファーム CEO

これまで日本と米国シリコンバレーで合計5社を起業してきたシリアルアントレプレナー。米国シリコンバレーのベンチャーキャピタルのベンチャーパートナーを務めた。Pioneers Asia というグローバルスタートアップイベントのスタートアップ責任者を務めるなど、これまで 2000社以上の世界中のスタートアップを評価してきた。現在は、国内外のスタートアップ数社の戦略アドバイザーやボードメンバーを務めながら、日本最大級のウェブマーケティング会社ベーシックの Chief Strategic Officerを務めながら、事業創造会社のブルーマリンパートナーズの Chief Strategic Officerも務める。2017年にスタートアップ支援会社であるUnicorn Farm を立ち上げた。

世界で累計7万シェアされたスライド “Startup Science”、発売後、3部門（経営、起業、イノベーション）で 42週連続ベストセラー1位(2017年11月2日～2018年8月15日)になった書籍 “起業の科学 スタートアップサイエンス“の著者である。



- 津嶋 辰郎

株式会社インディージャパン代表取締役 マネージングディレクター

大学では鳥人間コンテストのチームを設立し2度の優勝を先導。

レーシングカーコンストラクターでは、シリーズチャンピオンとなる車両開発を経験した後、半導体製造装置ベンチャーのスタートアップメンバーとして事業立ち上げを先導。現在はインディージャパンを設立し、日本およびシンガポールを拠点として大手企業における新規事業立ち上げを支援。

また、アクセラレーションプログラムZENTECH DOJOを設立し、社会的に意義のあるハードコアテクノロジーに注目したスタートアップの創業期に出資(現在15社)および取締役も兼任する。



- 中嶋 泰雄

特定非営利活動法人 産業技術活用センター 理事 事務局長

日立製作所のコーポレートベンチャーキャピタルにて、ベンチャーキャピタル子会社を設立し、ベンチャー投資、育成。東北大学にて東京大学・京都大学・大阪大学・東北大学のTech系ベンチャー創出を目指す官民ファンド(文部科学省官民イノベーションプログラム)の企画制度化を担当。経済産業省、総務省のベンチャー等委員、NEDO、民間企業のアドバイザー、メンター、各種法人などの役員委員として、オープンイノベーション、エコシステム構築、起業家、ベンチャー支援、地域活性化等を推進している。



- 野口 昌克

株式会社 日本医療機器開発機構 事業開発シニアディレクター

前職は米アボット社日本法人およびシンガポール法人で勤務。診断薬・機器、医薬品のプロダクトマーケティング及び、医療IT のアジアパシフィックのエリアマーケティングを担当。アジアで15名が選出された 同社 Asia Management Development Program に唯一の日本人として選ばれた。

前々職のドリームインキュベータでは、産学連携、技術系スタートアップの支援、大企業の新規事業実行支援の他、官公庁大型プロジェクトを担当。

京都大学理学部卒。同大学院博士(生命科学)修了。

日本学術振興会特別研究員(DC2)として、神経難病の基礎研究にも従事。

2014年神奈川県保健医療計画推進会議公募委員

医薬品、診断薬・機器開発のプロジェクトマネジメント業務担当



- 萩原 惇允

SyntheticGestalt Ltd. Co-Founder & COO

京都工芸繊維大学(工学)卒業後、Object of Nullを創業、代表取締役役に就任。大手企業の研究開発機関(R&D)向けのコンセプト設計(バイオ、人工知能、自動運転など)を担当。法政大学キャリアデザイン学部 産業文化論及びApple Japan 本社社内向け特別講義「Creative Salon」にて特別講師を務めた。2017年 NEDO「Technology Startup Supporters Academy(SSA)」を修了。

2018年 より内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期スマートバイオ産業・農業基盤技術担当 戦略コーディネータを務める。



● 齋藤 和紀

エクスポネンシャル・ジャパン社代表取締役・エン・ジャパン社社外取締役

早稲田大学卒、同大学院ファイナンス研究科修了。2017年からシンギュラリティユニバーシティ・グローバルインパクトチャレンジを主催。金融庁職員、石油化学メーカーの経理部長を経た後、ベンチャー支援に従事。経営者に寄り添い、事業計画策定から資金調達のリードなど、成長期にあるベンチャーのサポートや過渡期にある大企業へのアドバイザーを行いつつ、自らも経営者として様々なチャレンジを仕掛ける。エクスポネンシャル・ジャパン社代表取締役、エン・ジャパン社社外取締役、Spectee社CFO、iROBOTICS社CFO、Sabrewing Aircraft社Director等。(www.kazunorisaito.com)

主な著書

「シンギュラリティ・ビジネス」(幻冬舎)

「エクスポネンシャル思考」(大和書房)



● 秦 充洋

株式会社BDスプリントパートナーズ 代表取締役

株式会社メディカルインキュベータジャパン 取締役

一橋大学ビジネススクール(HUB)非常勤講師

早稲田大学ビジネススクール(WBS) 非常勤講師

特許庁 知財アクセラレーションプログラム(IPAS) 有識者委員・事業メンター

東京都 産業労働局 未来を拓くイノベーションTOKYOプロジェクト 評価委員

ボストンコンサルティンググループ(BCG)にて通信、電力、自動車など幅広い業種で新規事業、M&A、事業再生、組織・人事改革などのプロジェクトを指揮。

また1996年 株式会社ケアネット(東証マザーズ)を創業、共同創業者兼副社長として、医師向けサービスの計画立案、事業推進、資金調達、経営管理を担う。

2000年には ネットベンチャー社長に就任して戦略立案、実行、資金調達、B2B企業買収などにより15 億円の売上を達成(前年比20倍)する。

現在は BDスプリントパートナーズにて大企業の新規事業支援や起業家育成に従事する傍ら、一橋大学・早稲田大学の両校のビジネススクールにて社会人MBA生に事業開発の考え方とノウハウを指導している。

また 2018年にはイノベーション著しいバイオテックとデジタルヘルスに投資するVC「メディカルインキュベータジャパン」を設立、ファンド運営に当たる。

著書「プロ直伝！成功する事業計画書の作り方」(ナツメ社)

監修・執筆 「未来市場 2018-2027」(日経BP社)

監修・執筆 「未来事業 2018 実践編」(日経BP社)



● 林 光洋

株式会社ベータカタリスト 取締役

1994年4月、藤田観光株式会社に入社。2003年12月に株式会社ディー・エヌ・エーに入社。子会社社長を経て、2007年執行役員 EC事業本部長に就任。大手企業との JV設立や協業を手かけ黒字化まで推進。2013年3月に同社を退社後、ベンチャーや大手企業の各種プロジェクトを支援。2015年4月株式会社ベータカタリスト取締役に就任。



● 廣川 克也

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスインキュベーションマネージャー
財団法人SFC フォーラム事務局長
SFC フォーラムファンド ファンドマネージャー

1993年上智大学経済学部卒業。同年住友銀行入行。
1998年通商産業省出向、債務保証審査事業、全国新規事業発展基盤調査事業、起業家精神涵養教材開発事業等に従事。2000年7月銀行復帰、成長企業取引推進担当となり、ベンチャー企業、株式公開志向企業に対する将来性評価による融資業務を担当。2004年1月同行退職、同年2月より北海道大学知的財産本部着任。2005年12月より慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスインキュベーションマネージャーとして着任、起業家に対する事業計画作成、資金調達、販路拡大支援等を実施。2008年4月より KIEP研究コンソーシアム事務局長を兼任。海外学生ビジネスコンテストにアドバイザーとして参加、2009年、2010年にはGlobalTic@台湾でアジア最優秀賞、2009年 I2P Global Competitionではチームを世界一に導く。
2012年より財団法人SFC フォーラム設立、事務局長就任。
2016年よりSFC フォーラムファンド ファンドマネージャー就任。
2019年より株式会社キングジム社外取締役兼務。



- 本藤 孝

QB Capital 代表パートナー

FGC 代表パートナー

外資系大手コンサルティング会社にて、IT及びマネージメントコンサルティングに従事し、数々のプロジェクトに携わる。その後、大手ベンチャーキャピタルにてヨーロッパ、イスラエルへのスタートアップ投資を行う事業部の立ち上げメンバーとして参画する。フランスのベンチャーキャピタルへの出向などを含め、数々のスタートアップ投資を実施し独立。ベンチャーキャピタルのFGCを創設し、55百万ドル(約65億円)のファンドを組成。同社の代表パートナーに就任し、国内外への投資に関わり、投資先の取締役を歴任。会社設立以前から相談を受けるなど徹底したハンズオンを実施。シード段階からの出資も手掛け、投資先数社のファウンダーメンバーとして創業し経営に参画。主に九州の大学関連の案件(共同開発を含む)、及び九州出身者など九州に関連した案件に投資を行うQBキャピタルを創設し、QBキャピタルの代表パートナーに就任。30億円のファンドを組成した。15年以上にわたりスタートアップへの投資を行っている。

Eastern Michigan University BBA in Marketing卒

同大 MBA in Finance修了



- 三木 寛文

MK Management, Inc. 代表取締役

早稲田大学商学部卒業。モバイルインターネット領域の成長ベンチャー数社において、約15年の事業開発経験を持つ。特に、GREE株式会社では初期メンバーとして入社、GREE モバイル化、大手通信事業者や各種コンテンツ企業との提携、広告宣伝部やプラットフォーム事業の立ち上げ、中国事業統括など、数多くの新規事業開発、提携案件を担当する。

現在は個人投資家としてベンチャーやVCに個人出資しながら、数十社のアドバイザー/社外取締役を務め、事業開発や営業戦略策定、資金調達アドバイス、人事組織設計のサポート、提携先の紹介や採用支援などをハンズオンで行う。

経産省IPA未踏アドバンスビジネスアドバイザー、ビジネス・ブレイクスルー大学コンテンツ会議委員、講師。



- 南方 郁夫

クラウド・テン株式会社 代表取締役

大阪大学 基礎工学部 情報工学研究科修了。パナソニックで約30年間勤務。その間、本社R&D 部門においてソフトウェアの研究・開発の責任者としてパソコン、EWS、ワープロ、デジタルTV、携帯電話などの事業化立ち上げを主導。

また、国際標準化、コンソーシアムの創設やボードメンバーの経験も多数(DLNA、CE Linux Forum、Java Community Process、Marlin DRM など)

過去3回、合計8年間にわたってシリコンバレーでの駐在経験。

①UC バークレー EECS 客員研究員②バークレーでの人脈がきっかけとなってシリコンバレーのスタートアップと EWS 向けソフトウェアの共同開発③米国パナソニックR&D会社のプレジデント。その間に、シリコンバレーでクラウドを活用したオンラインゲーミング事業を行う社内ベンチャーを起業 2011年末にパナソニックを退職してクラウド・テン株式会社を創業。シリコンバレーの経験と人脈を活かして日本企

業の新規事業創出やシリコンバレーの企業の日本戦略のコンサルティングを行うとともに、独自のクラウドサービスの開発、事業化に取り組んでいる。



- 八重樫 馨

i-BuC Ltd. President & CEO

ドイツ系化学企業、Hoechst（現 医薬部門は、Sanofi 社、スペシャリティケミカルは、Clariant 社、基礎化学は、Celanese 社）で、新事業開発、半導体製造用関連機器事業の立ち上げ、日本企業との共同事業設立等を行う。

リチウム電池用セパレーター、人工心肺用中空糸、水処理用脱気膜の3事業部門を持つ Celgard Inc.（Polypore International Inc.を経て、旭化成に売却。）のマネジメント・チームとして経営に参画、日本法人セルガード株式会社代表取締役社長兼務。同グループの世界最大の鉛電池用セパレーター企業 Daramic Inc.のアジア・太平洋統括や、同グループ中国現地法人 Battery Separator Shanghai Co., Ltd.の取締役を兼務。

シリコンバレーのナノテク企業 NanoGram Corporation の上席副社長および同日本法人ナノグラム株式会社の代表取締役社長に就任。同社の帝人株式会社への売却後、帝人グループのメンバーとして同社の経営に携わる。

事業創造やベンチャー起業支援による産業創成の為に、仲間と共に日本にアイ・バック株式会社を、米国にi-BuC LLC を設立。同社CEO & President。神戸大学、東京農工大学 非常勤講師。



- 山本 辰久

ボーダレス・プランニング株式会社 代表取締役

京都大学大学院工学研究科交通土木工学専攻修了。ボストン大学大学院都市計画学科修了(MCP)。横浜市役所都市計画局勤務の後、株式会社日本総合研究所総合研究部門で公的機関の主要計画立案・改革支援、企業の中期経営計画策定などとともに、ビジネスモデル特許申請も経験。この間、神戸大学大学院経営学研究科助教授として出向。2011年に起業し、境界にこだわらないボーダレスな視点から、医療、運輸、食品、製造、環境関連業界をはじめ、経営幹部・管理職らを対象とした人材育成・教育研修とともに、事業計画立案支援、海外進出支援にも取り組む。環境NGO カーボンシンク理事。



(順不同)